

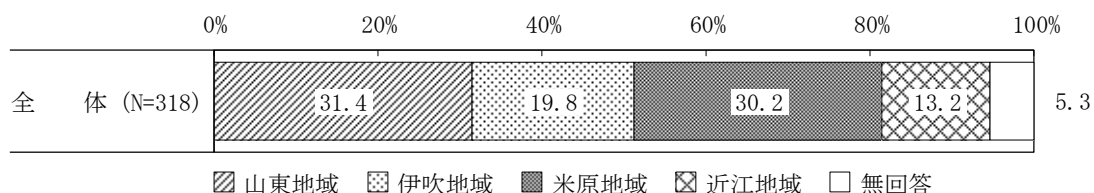
第2章 介護保険施設等利用者調査

1 基本属性

(1) 入所(院)前の居住地域

入所(院)前の住まいは、「山東地域」が31.4%、「伊吹地域」が19.8%、「米原地域」30.2%、「近江地域」が13.2%となっています。

図表 2-1 入所(院)前の居住地域

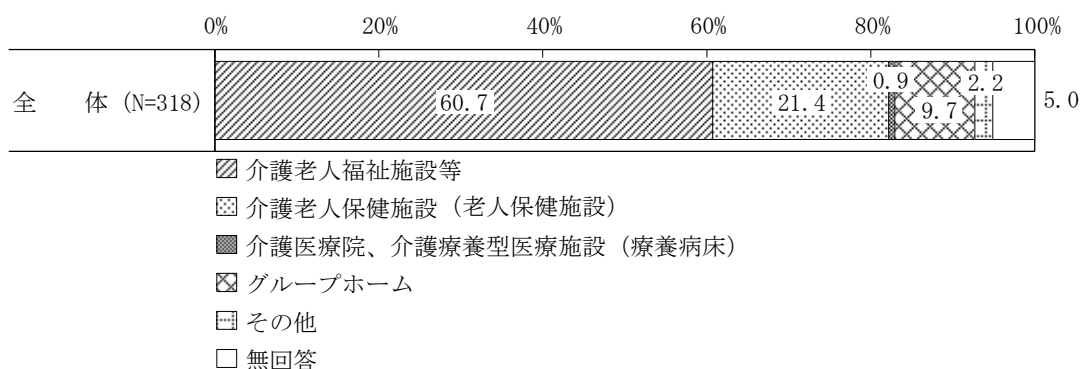


(2) 施設の種類

現在利用している施設の種類の、「介護老人福祉施設等（特別養護老人ホーム、地域密着型特別養護老人ホーム）」が60.7%、「介護老人保健施設（老人保健施設）」が21.4%、「介護医療院、介護療養型医療施設（療養病床）」が0.9%、「グループホーム」が9.7%となっています。

「その他」として、「有料老人ホーム（2人）」「介護付有料老人ホーム」「養護老人ホーム（2人）」の記載がありました。

図表 2-2 施設の種類



【介護老人福祉施設等（特別養護老人ホーム、地域密着型特別養護老人ホーム）】 介護の必要な高齢者に入浴、排せつ、食事等の日常の世話、健康管理、機能訓練、療養上の世話をする施設。

【介護老人保健施設（老人保健施設）】 比較的病状の安定している人が、医学的管理のもとで介護、看護、リハビリテーションを受けながら在宅復帰を目指す施設。

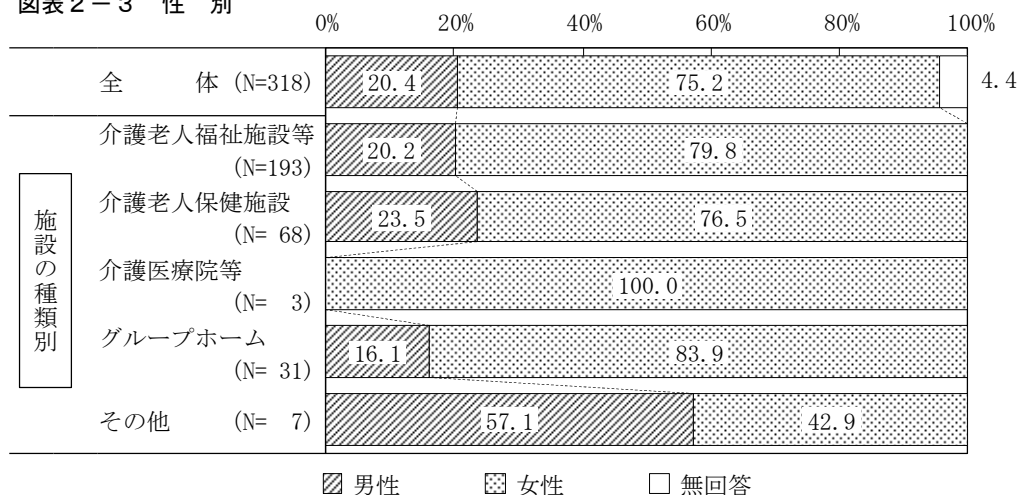
【介護療養型医療施設（療養病床）】 慢性期疾患などで長期的な療養を必要とする要介護者のための施設。

【認知症対応型共同生活介護（グループホーム）】 認知症高齢者が家庭的な雰囲気の中で共同生活し、入浴、排せつ、食事等の日常の世話、機能訓練を行い、能力に応じ自立した生活を営む施設。

(3) 性別

対象者の性別は、「男性」が20.4%（65人）、「女性」が75.2%（239人）と女性が非常に多くなっています。

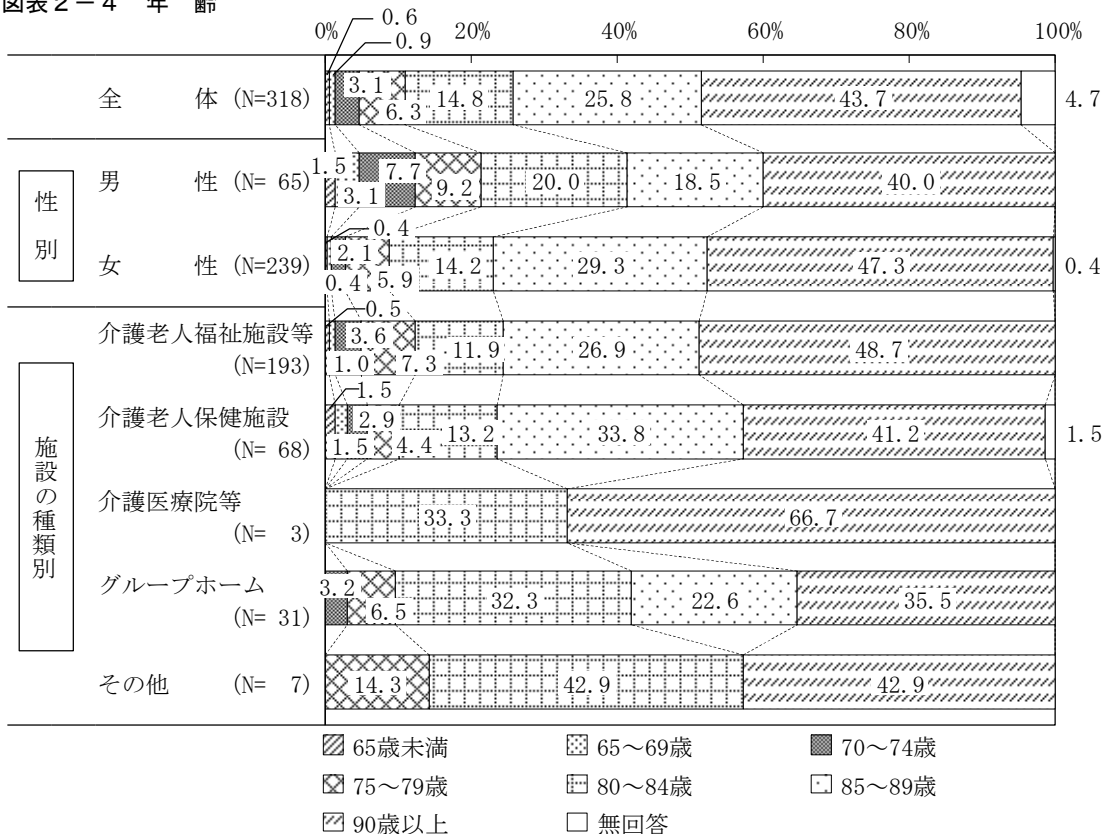
図表 2-3 性別



(4) 年齢

対象者の年齢は、＜75歳未満＞が4.6%、＜75～84歳＞が21.1%、＜85歳以上＞が69.5%となっています。男性は女性に比べて＜85歳未満＞が高く、女性は＜85歳以上＞が高くなっています。

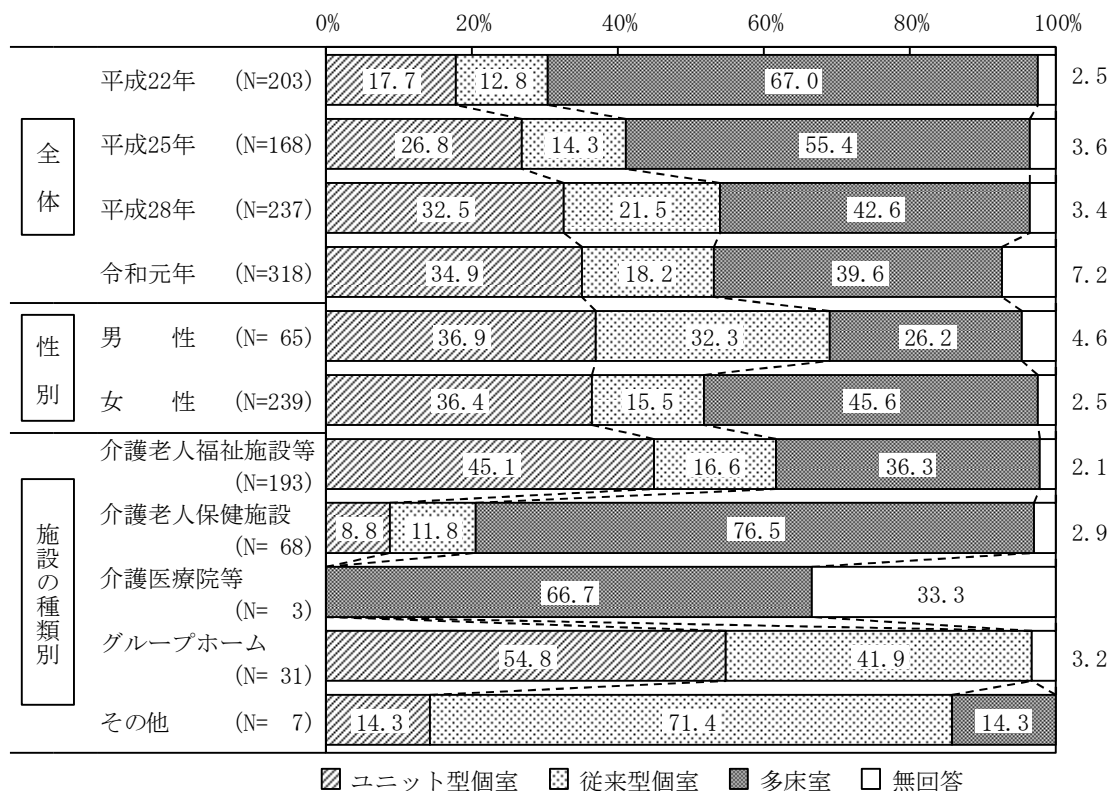
図表 2-4 年齢



(5) 部屋の形態

対象者が利用している部屋の形態は、「ユニット型個室」が34.9%、「従来型個室」が18.2%となっており、合計した<個室>は53.1%です。これまでの調査と比べると、「ユニット型個室」が高くなり、「多床室」が低下してきています。

図表 2-5 部屋の形態（過去の調査との比較）

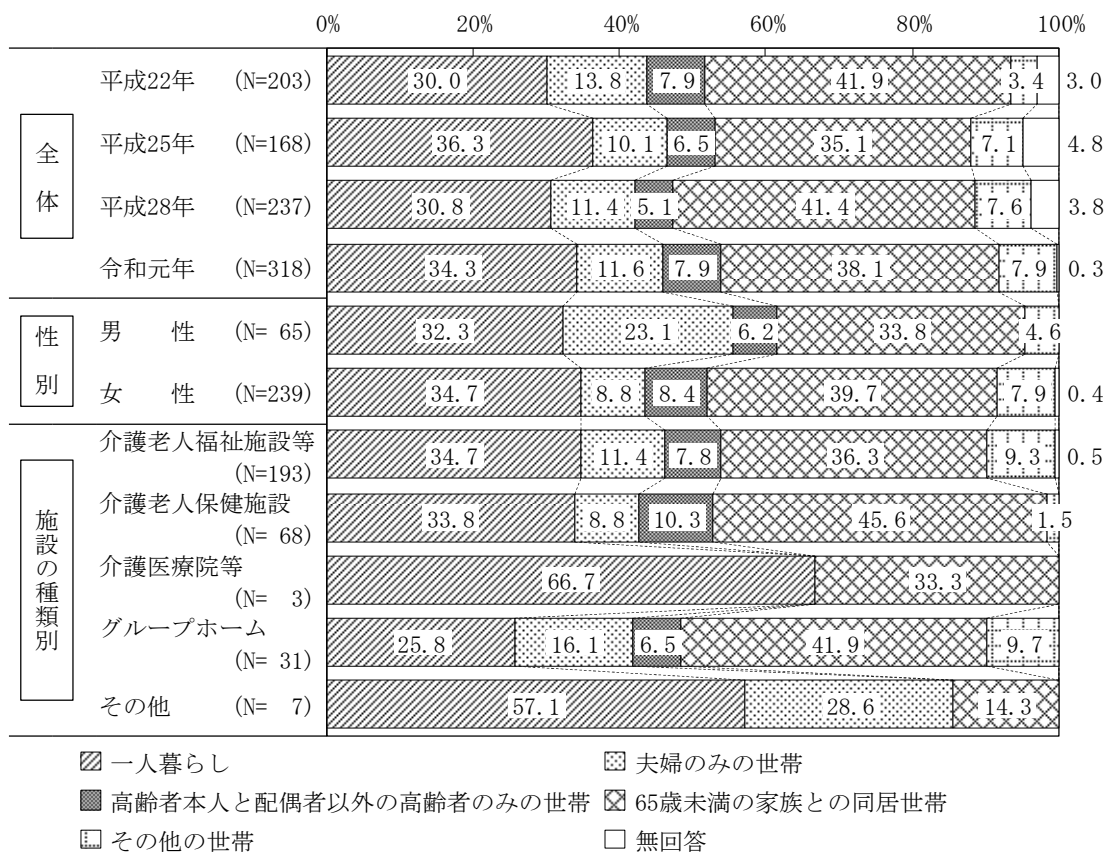


- 【ユニット型個室】 入所者の自立的生活を保障する個室と、少人数の家庭的な雰囲気の中で生活できる共有スペースを備えている。
- 【従来型個室】 一つの居室を一人の入所者が占有する形態。
- 【多床室】 一つの居室を複数の入所者で利用する形態。

(6) 入所(院)前の世帯

施設を利用する前の世帯は、「65歳未満の家族との同居世帯」が38.1%と最も高く、次いで「一人暮らし」(34.3%)、「夫婦のみの世帯」(11.6%)の順となっています。

図表2-6 入所(院)前の世帯(過去の調査との比較)

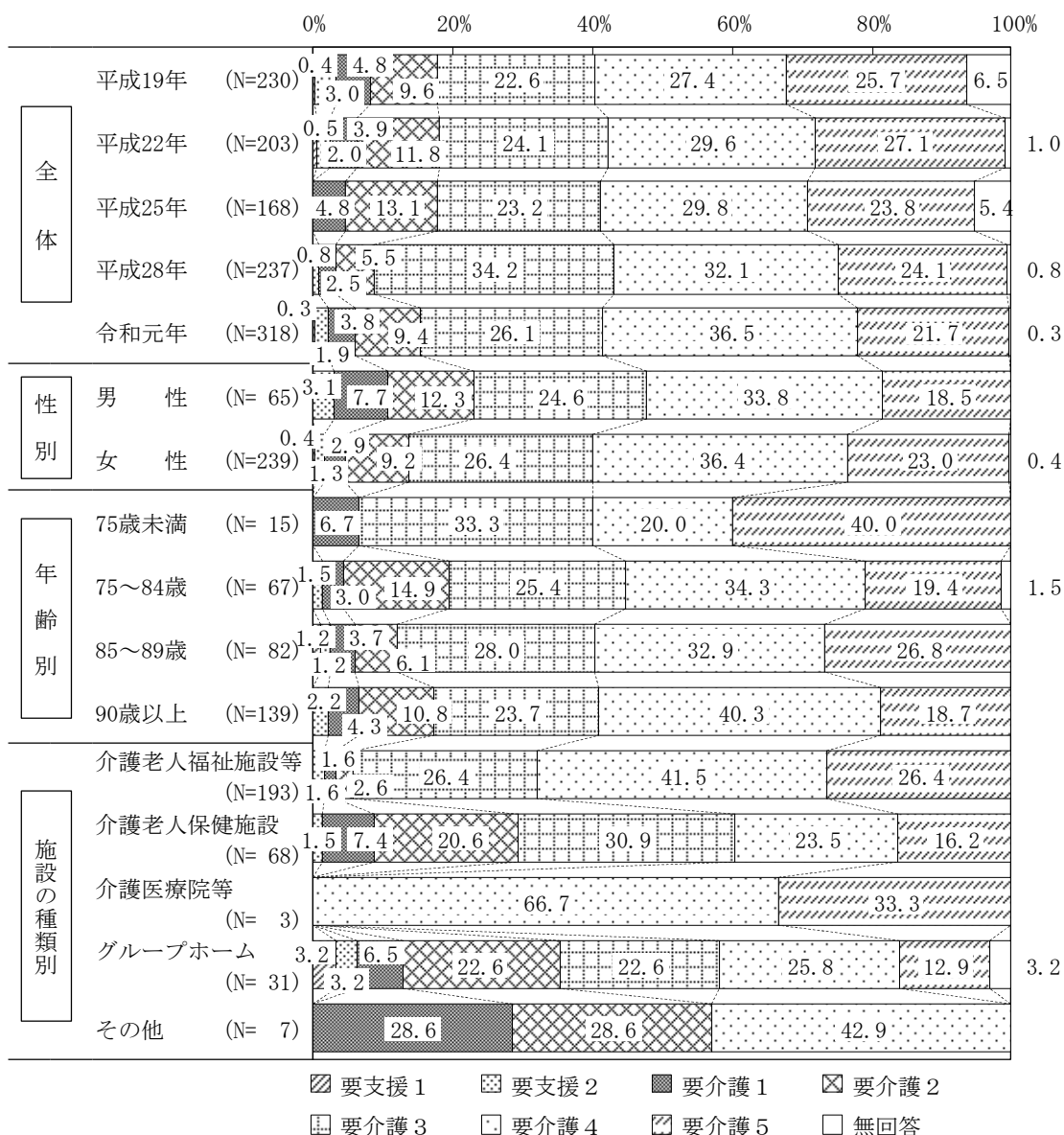


2 利用者の状況

(1) 要介護度

要介護度は、「要介護4」が36.5%と最も高く、次いで「要介護3」「要介護5」の順となっています。3者の合計は84.3%です。特別養護老人ホームの利用は原則として要介護3以上です。介護老人保健施設、グループホームでは、「要介護2」が20%を上回っています。その他の施設は有料老人ホームや養護老人ホームであり、7人中「要介護1」「要介護2」が4人となっています。

図表2-7 要介護度（過去の調査との比較）

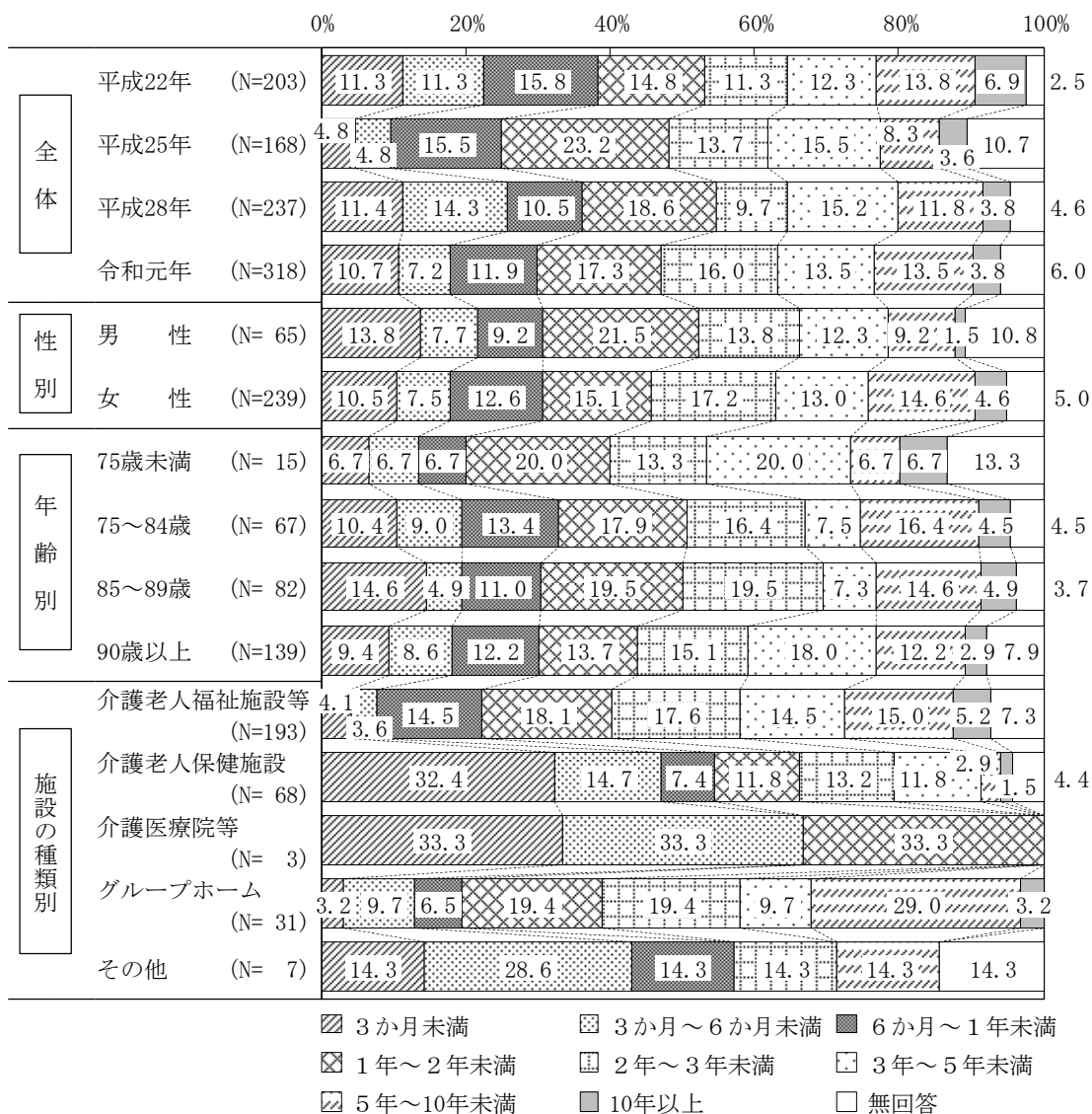


(2) 施設の利用期間

現在の施設の利用期間は、「3か月未満」「3か月～6か月未満」「6か月～1年未満」を合計した<1年未満>は29.8%、「1年～2年未満」が17.3%、「2年～3年未満」が16.0%、「3年～5年未満」が13.5%となっています。「5年～10年未満」と「10年以上」を合計した<5年以上>は17.3%です。平成28年と比べると、「2年～3年未満」が高くなり、「3か月～6か月未満」が低下しています。

施設の種類別にみると、介護老人保健施設、介護医療院等、その他の施設は<1年未満>が50%以上を占めています。介護老人福祉施設等、グループホームの利用期間はさまざま、<5年以上>も20%以上となっています。

図表 2-8 施設の利用期間（過去の調査との比較）



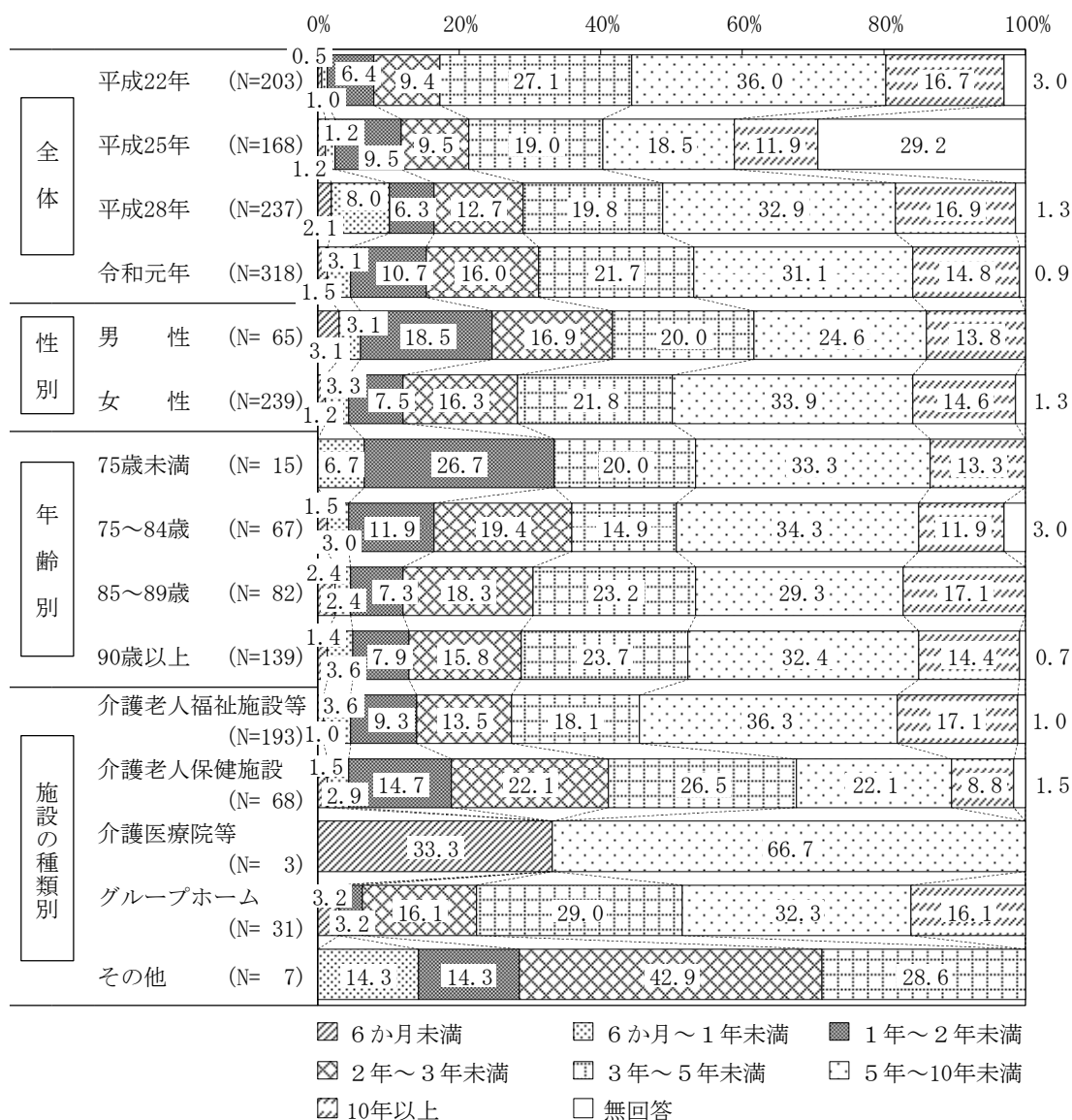
(3) 介護が必要となってからの期間

介護が必要となってからの期間をたずねたところ、「5年～10年未満」が31.1%と最も高く、次いで「3年～5年未満」(21.7%)、「2年～3年未満」(16.0%)、「10年以上」(14.8%)となっています。<2年未満>は15.3%です。

これまでの調査と比べると、<5年以上>が低くなり、<3年未満>が高くなる傾向にあり、利用者の介護期間は短くなる傾向にあると言えます。

施設の種類別にみると、介護老人福祉施設等は<5年以上>が50%以上を占めています。

図表2-9 介護が必要となってからの期間（過去の調査との比較）



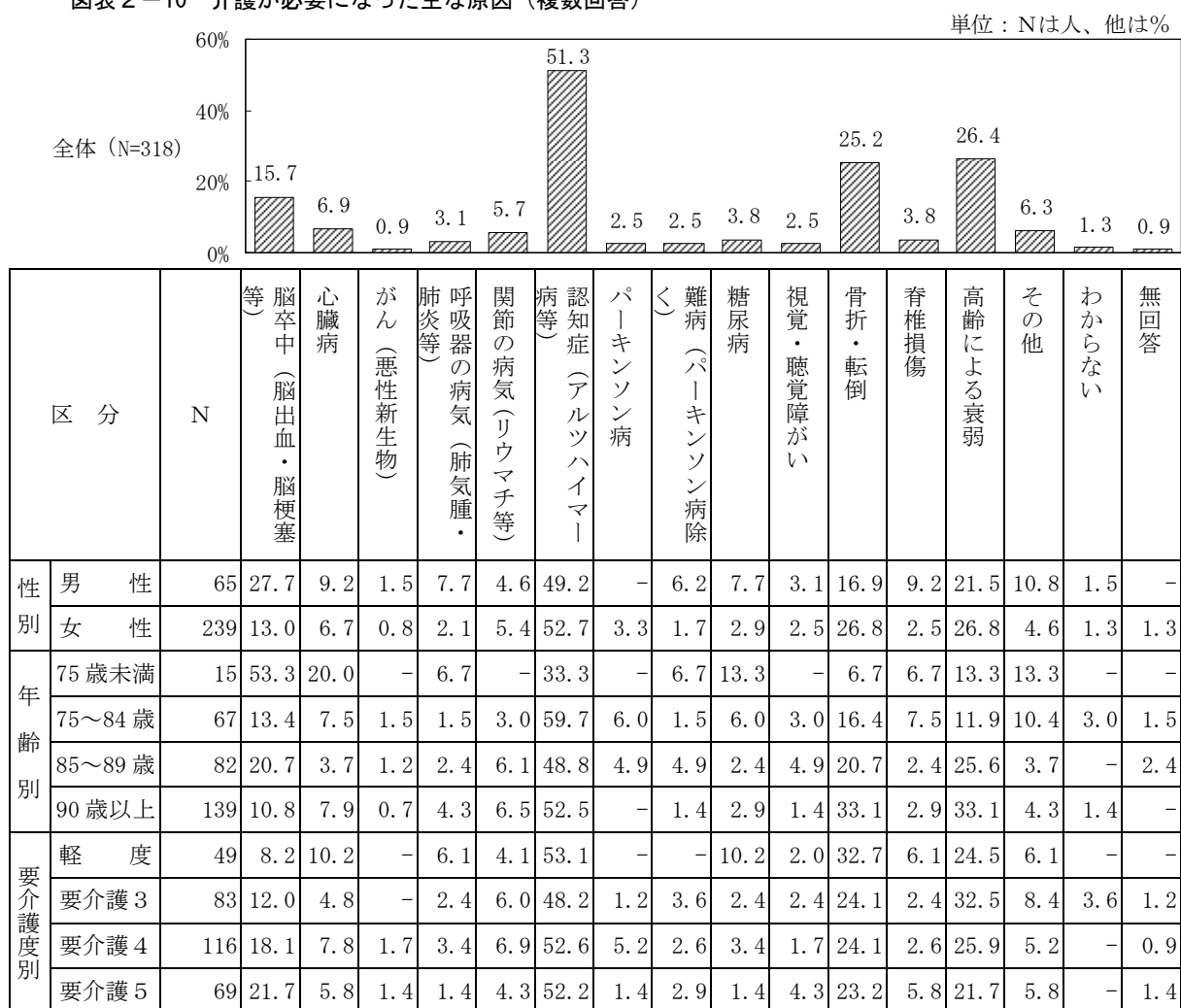
(4) 介護が必要になった主な原因

介護が必要となった主な原因をたずねたところ、「認知症(アルツハイマー病等)」が51.3%と最も高く、次いで「高齢による衰弱」が26.4%、「骨折・転倒」が25.2%、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」が15.7%となっています。そのほかは7%以下です。

性別にみると、「脳卒中」は男性が高く、「骨折・転倒」は女性が高くなっています。年齢別にみると、「脳卒中」は75歳未満が高く、「骨折・転倒」「高齢による衰弱」は高齢層が高くなっています(図表2-10)。

「その他」の原因として、図表2-11の内容が記載されていました。

図表2-10 介護が必要になった主な原因(複数回答)



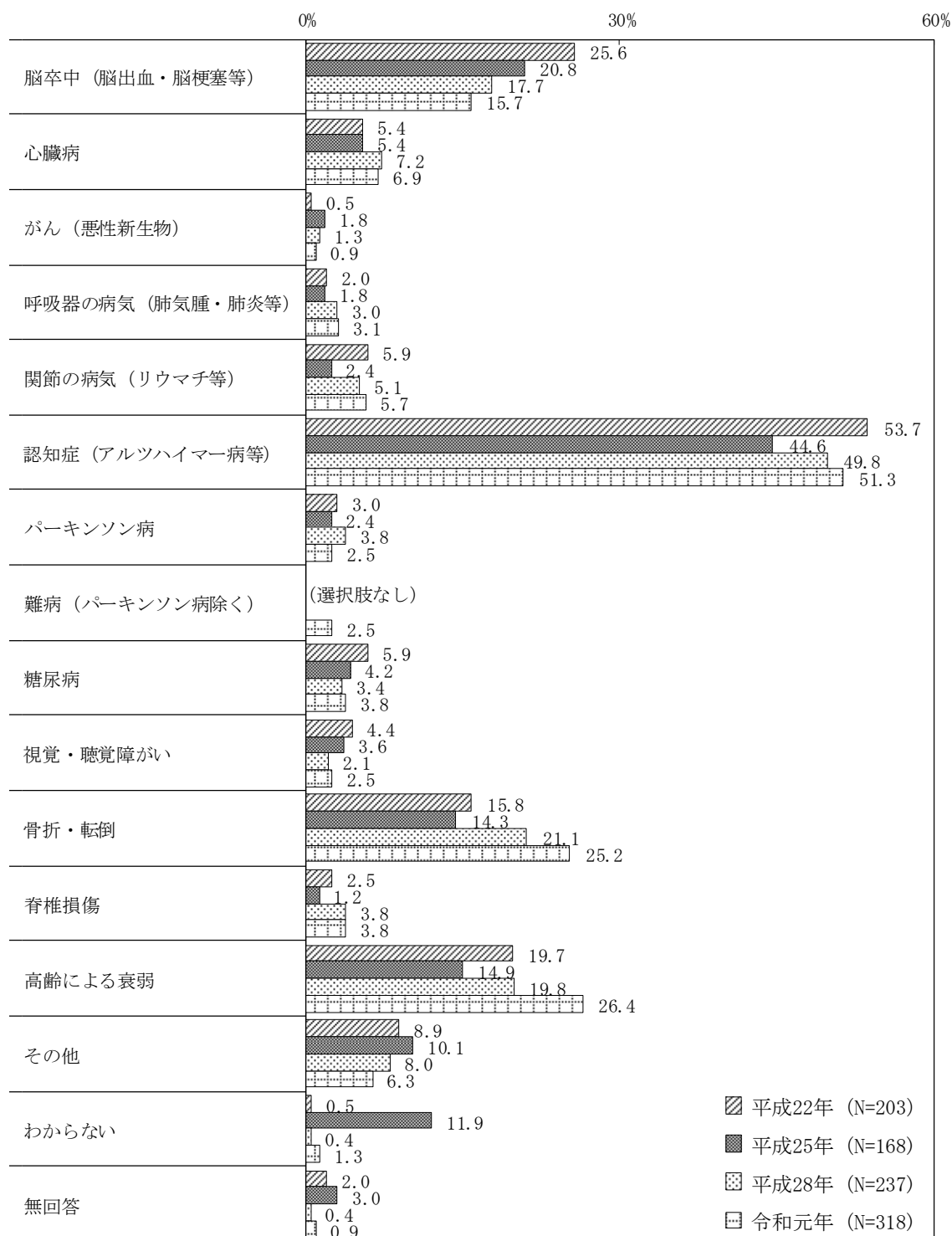
(注) 要介護度別の「軽度」とは要支援1～要介護2の合計(以下同じ)。

図表2-11 介護が必要になった主な原因(その他)

<ul style="list-style-type: none"> ・知的障がい(2人) ・うつ病 ・精神疾患 ・精神障がい ・神経内科 ・被害妄想 	<ul style="list-style-type: none"> ・配偶者の死去 ・夫の死去 ・家族のがん ・全身麻酔 ・誤嚥性肺炎 ・急性胆嚢炎 	<ul style="list-style-type: none"> ・低ナトリウム血症 ・大動脈解離で現状維持 ・事故後遺症 ・腰からの歩行障がい ・生まれてから1年ほどたってから、両足の長さが違うことに気づいたと親から聞いた
---	---	---

これまでの調査と比べると、「認知症」が最も高いのは変わりませんが、「脳卒中」が低くなり、「骨折・転倒」「高齢による衰弱」が高くなっています（図表2-12）。

図表2-12 介護が必要になった主な原因（過去の調査との比較、複数回答）



3 施設利用の理由と施設選定の理由

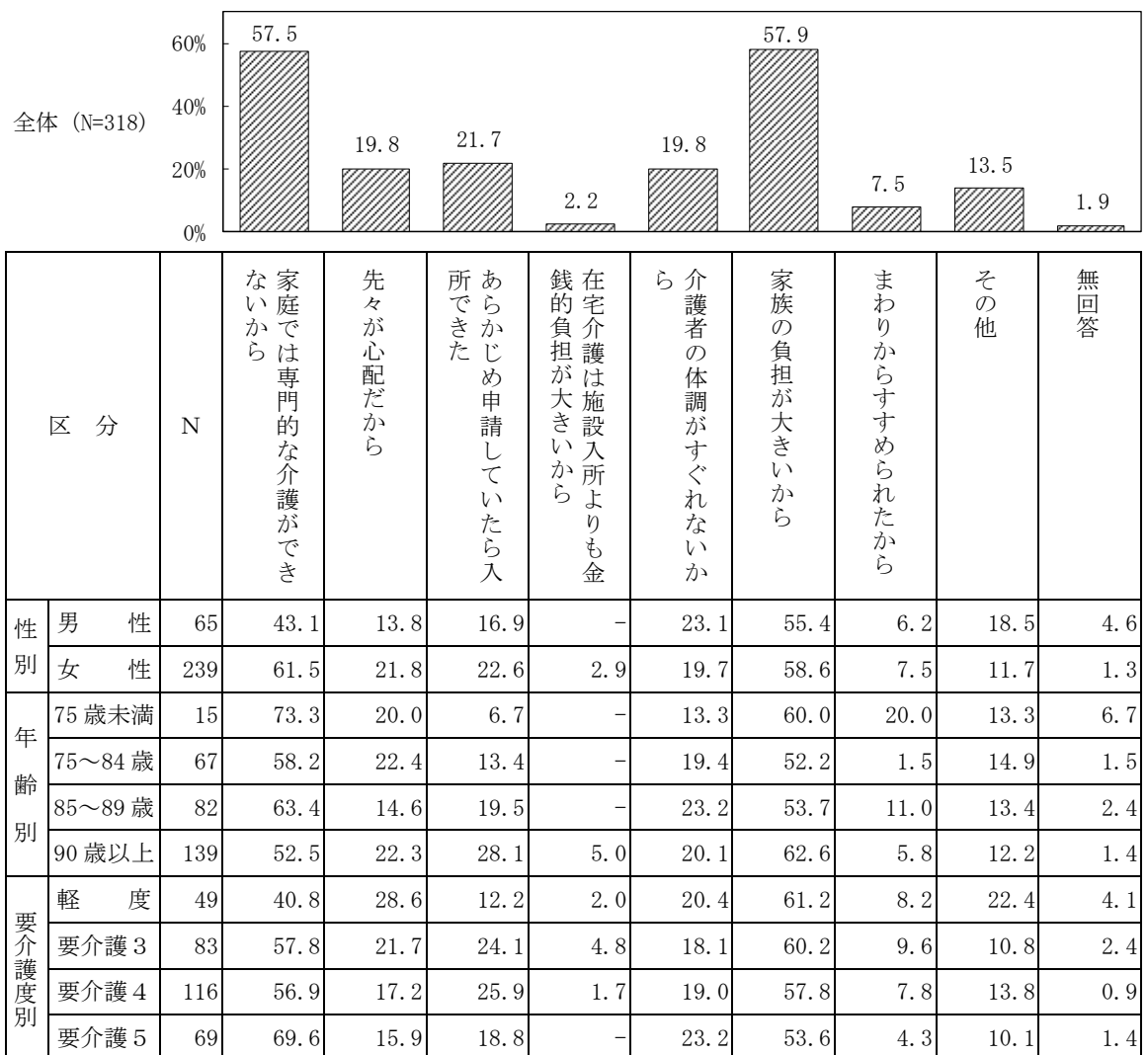
(1) 施設を利用した理由

施設を利用した理由としては、「家庭では専門的な介護ができないから」「家族の負担が大きいから」の2項目が57%台と高くなっています。

いずれの属性も「家庭では専門的な介護ができないから」「家族の負担が大きいから」のいずれかが最も高くなっています。そのほかでは、年齢別の90歳以上の「(すぐには入所できないと聞いていたので、) あらかじめ申請していたら入所できた」、要介護度別の<軽度>の「先々が心配だから」が28%台と比較的高くなっています(図表2-13)。

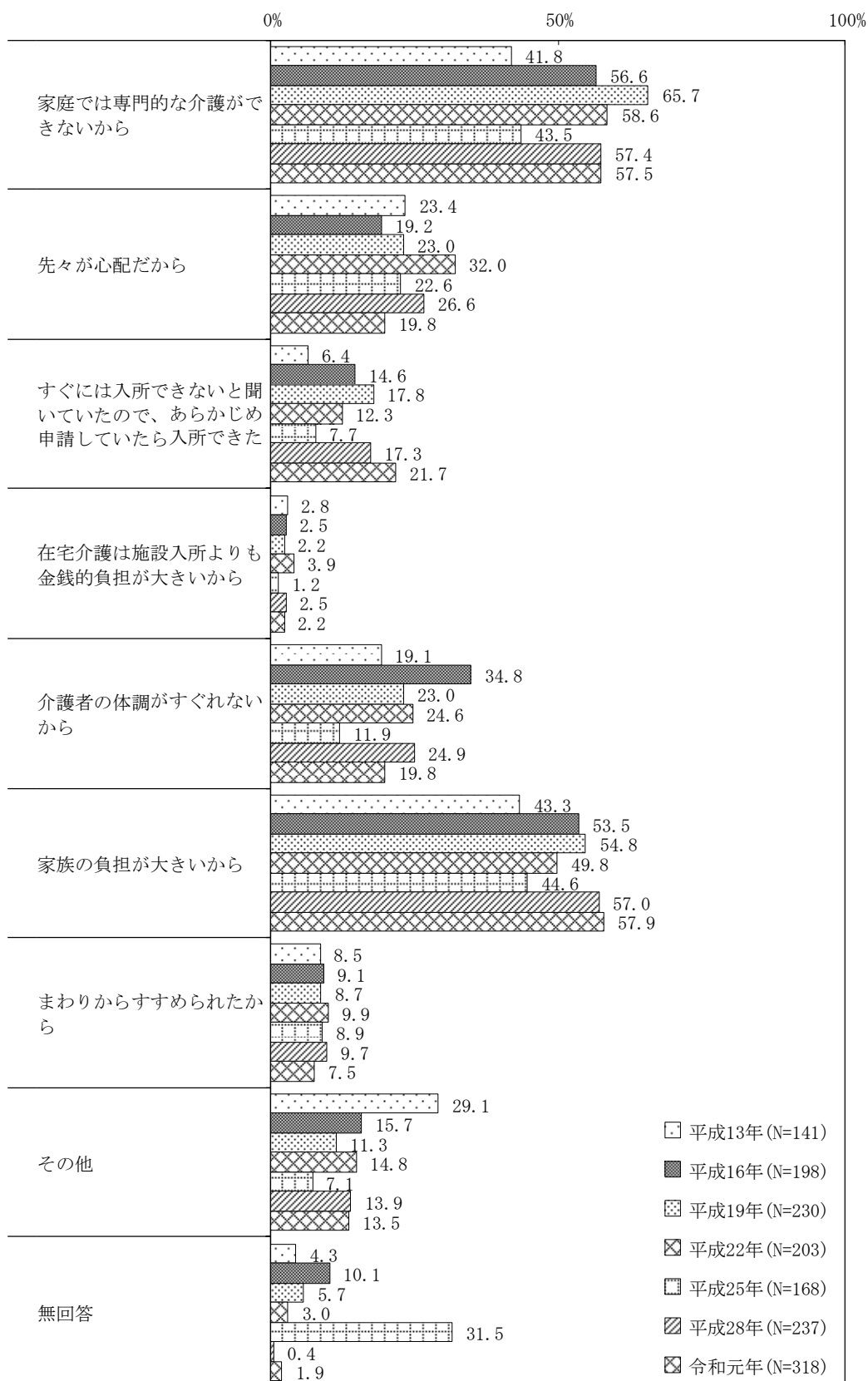
図表2-13 施設を利用した理由(複数回答)

単位：Nは人、他は%



これまでの調査と比べると、上記2項目が高いのは同じですが、「家族の負担が大きいから」「あらかじめ申請していたら入所できた」はこれまでで最も高くなっています（図表2-14）。

図表2-14 施設を利用した理由（過去の調査との比較、複数回答）



「その他」として、図表 2-15の内容が記載されていました。

図表 2-15 施設を利用した理由（その他、添え書き）

<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし（17人） ・一人で家にいると、ぼけると聞いた ・一人暮らしで、子どもが離れて生活している ・居住地の近くに介護者がいないため、娘の居住地の近くに転居し入所した ・独居で、娘は嫁いでいる ・家族が遠方 ・長男が神奈川県に住んでいて、遠距離での介護が困難 ・夫婦二人暮らしであったが、妻が入院し一人では生活できなかった ・本人が行きたいと言った ・家が農家で、農繁期には見守りができない ・本人に被害妄想がある ・歩行困難になった ・歩行できない ・腰からの歩行障がいのため、一人での日常生活ができない ・歩行できなくてリハビリが必要なのに、入院先ではリハビリしてもらえなかった ・リハビリ 	<ul style="list-style-type: none"> ・大動脈解離で、移動すると内出血しあざになるため、現状維持のためデイケア利用 ・徘徊 ・徘徊が数回あった ・特に夜中の徘徊があり、家族の見守りが限界であった ・夜に110番をしたりするので、他市から娘が泊まり込む毎日だった ・要介護者は一人暮らしで、糖尿病と認知症があって、日常生活維持が難しかった。加えて、グループホームに入居したが、施設と変わらない内容で、減免などの適用がされず、経費負担が大きかった ・家族から介護サービスを受けられなくなって、措置入所 ・同居していた親族による虐待（ネグレクト、身体的、経済的） ・措置入院（3人） ・入院費が払えなくなった、生活保護
---	--

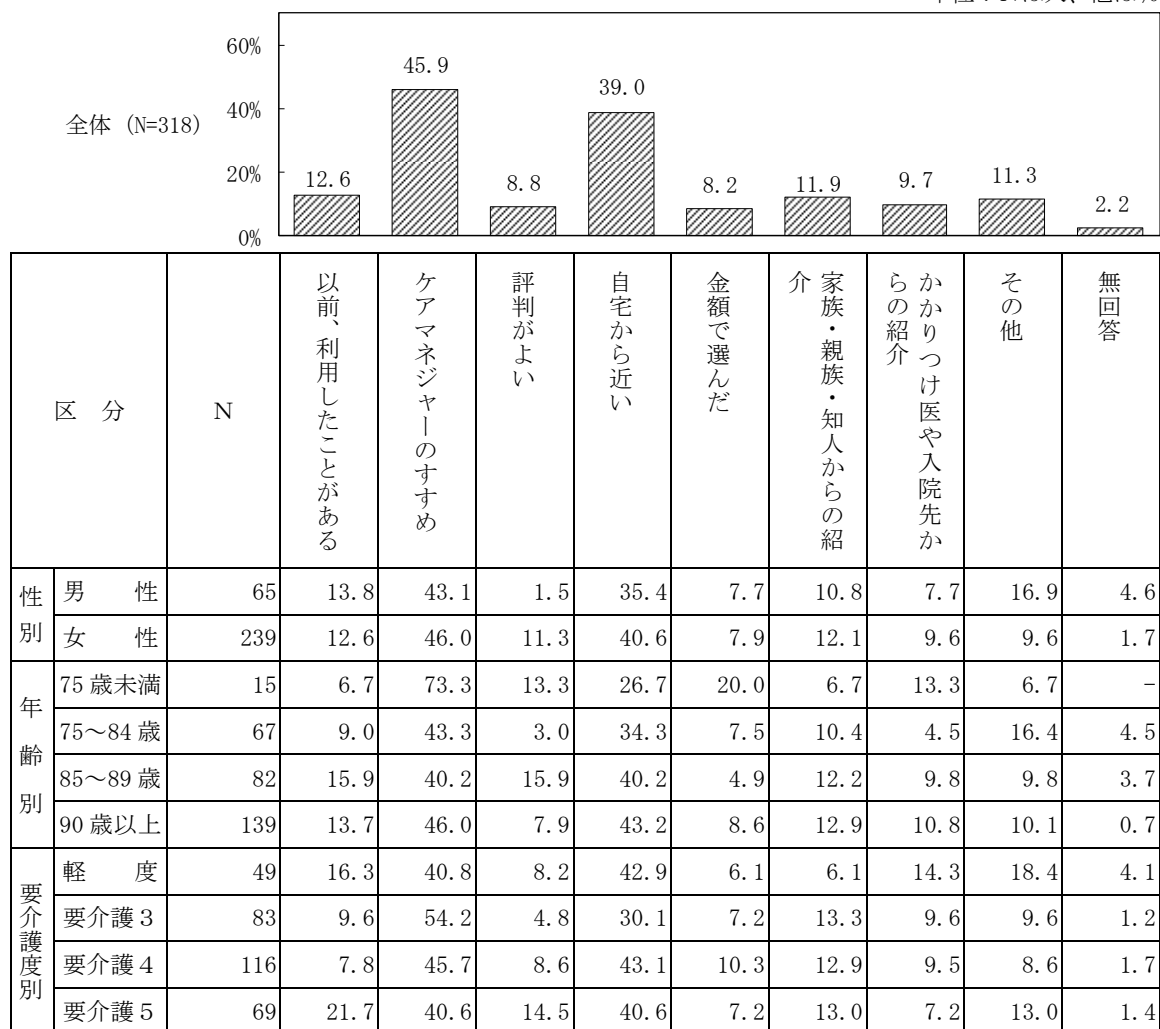
(2) 施設の選定理由

現在の施設をどのような理由で選んだかたずねたところ、「ケアマネジャーのすすめ」が45.9%と最も高く、次いで「自宅から近い」が39.0%となっています。理由をすべて合計すると147.4%となり、複数の選定理由によることがうかがわれます。

属性別にみると、いずれも上記2項目が高くなっていますが、そのほかでは、年齢別の75歳未満の「金額で選んだ」、要介護度別の要介護5の「以前、利用したことがある」が20%以上です（図表2-16）。

図表2-16 施設の選定理由（複数回答）

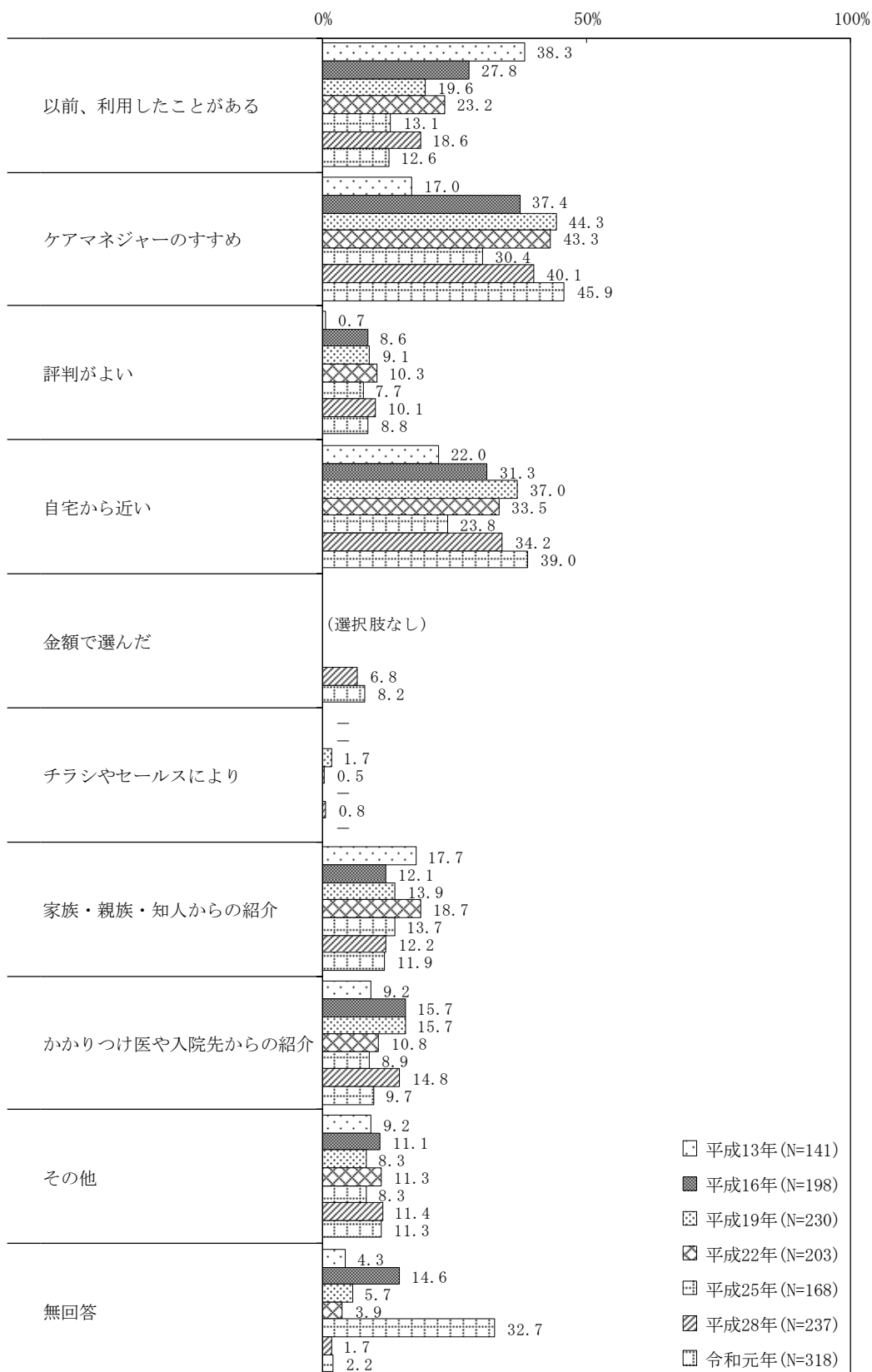
単位：Nは人、他は%



(注)「チラシやセールスにより」と答えた人はいなかった。

これまでの調査と比べると、概ね同様の結果となっています。「以前、利用したことがある」は低下傾向にあります（図表2-17）。

図表2-17 施設の選定理由（過去の調査との比較、複数回答）



「その他」として、図表 2-18の内容が記載されていました。

図表 2-18 施設の選定理由（その他、添え書き）

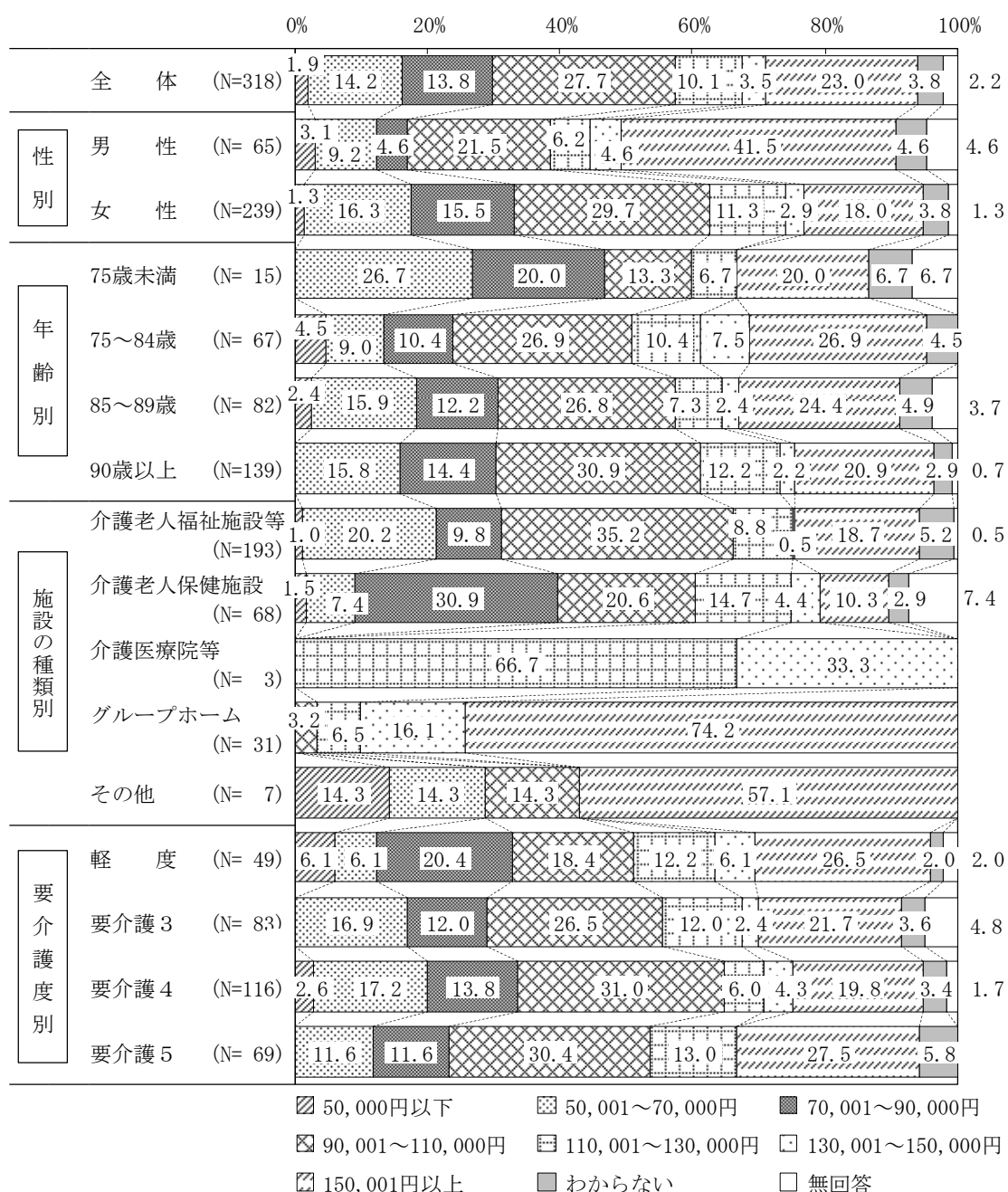
<ul style="list-style-type: none">・見学して施設の雰囲気が気に入った・施設の雰囲気・清潔だから・リハビリが受けられる・何度もいろいろな施設に足を運び、3つの施設にしぼったうちの1つです。とても良いスタッフだから・施設見学の結果・希望に合っている・ショートステイから出なくてはいけない時期に、20件ぐらい頼み歩いたところ、1件だけ受け入れると言ってくくださった・入所可能な施設を探していたところ、空きの連絡を受けた・特養を何件も申し込みをした中から、しばらくして入所の打診をしてくださった・いくつもの申し込みの中から、なんとか入れていただいた・一番早く入所可能の通知があった・いろいろ申請していて、はじめに入所できた	<ul style="list-style-type: none">・申請して、申し込みの順番がきた・7か所の施設を申し込み、新設のため入所することができた・複数の施設への申請・空室はこの施設だけだった・他になかった・とにかく入れてもらえるところ・受け入れる施設がないため、今の施設のように、自然と高い施設か家から不便なところの施設しかない・夫が入所していた・前に入所していた施設の紹介・グループホームからの紹介・ケアセンターからの勧め・メディア・措置入院（3人）・措置入所（2人）
--	--

4 利用者負担

令和元年11月分の利用者負担金（日常生活費、差額ベッド代等を含みます）はどれくらいかたずねたところ、「90,001円～110,000円」が27.7%と最も高くなっています。次いで「150,001円以上」が23.0%、「50,001円～70,000円」が14.2%、「70,001～90,000円」が13.8%、「110,001円～130,000円」が10.1%となっています。

施設の種別別にみると、「150,001円以上」が介護老人福祉施設等は18.7%、介護老人保健施設は10.3%であるのに対し、グループホーム、その他の施設は50%以上となっています（図表2-19）。

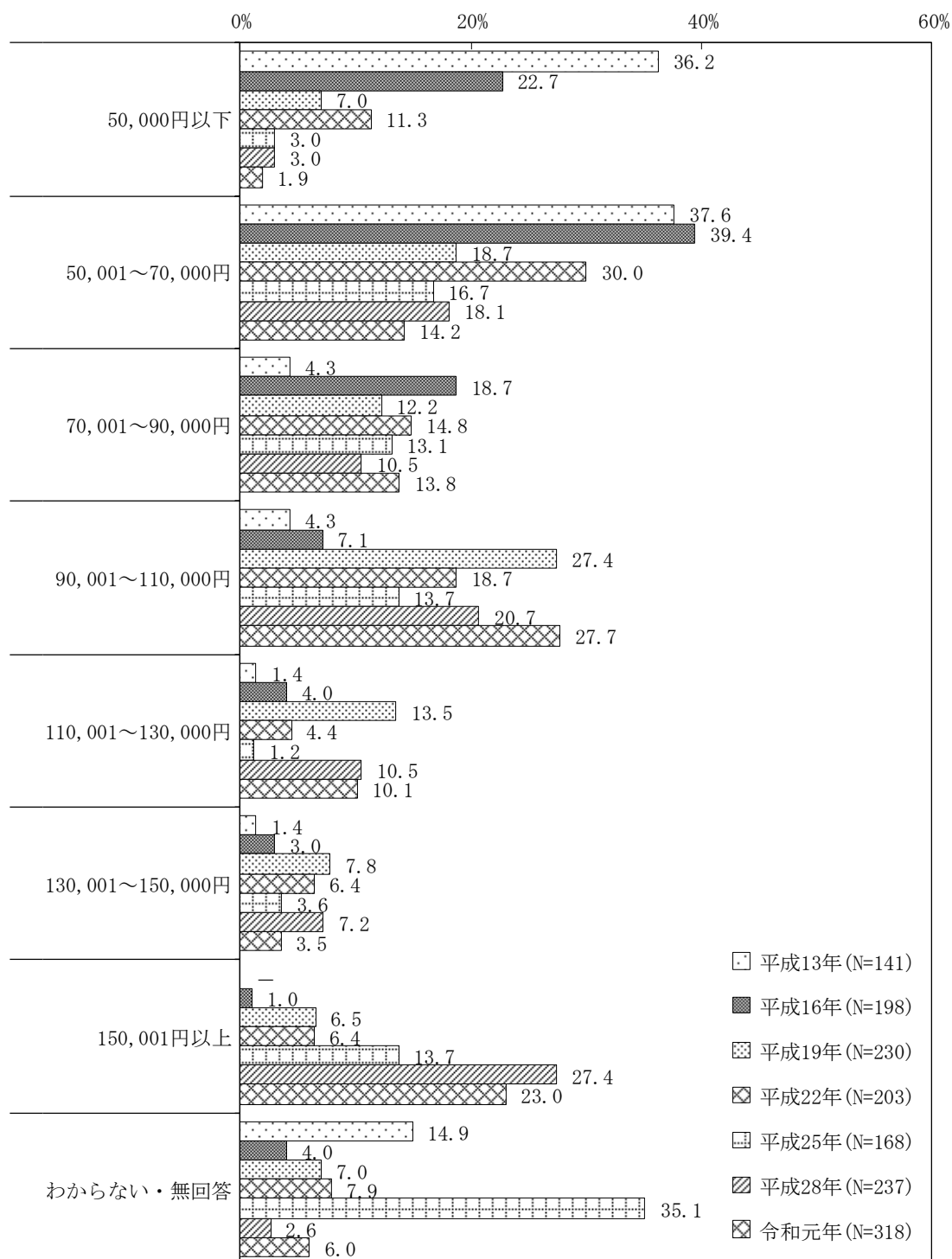
図表2-19 1か月分の利用者負担金



施設・在宅間の利用者負担の公平性、介護保険制度の持続可能性を高めるなどの観点から、施設の居住費・食費の負担化、一定以上所得者の負担割合の引き上げが行われたことや、ユニット型の増加などにより、全般的に自己負担は多くなってきています。

これまでの調査と比べると、年により増減はありますが、＜70,000円以下＞が低下し、「150,000円以上」が高くなる傾向にあります（図表2-20）。

図表2-20 1か月分の利用者負担金（過去の調査との比較）

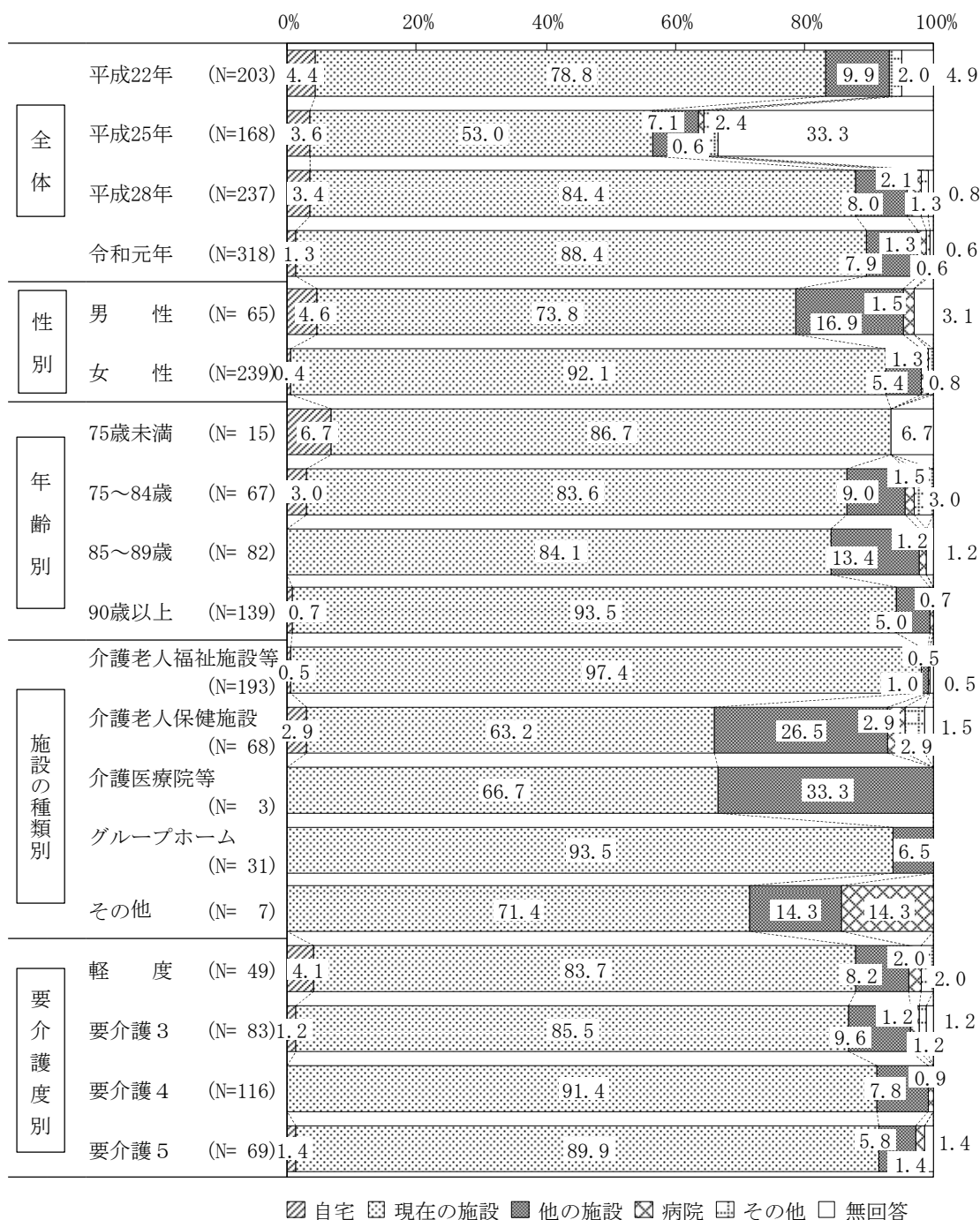


5 どこで介護を受けたいか

今後どこで介護を受けたいかをたずねたところ、「現在の施設」が88.4%を占めています。「自宅」は1.3%、「他の施設」は7.9%（25人）です。現在利用している施設の種類の別にも、いずれも「現在の施設」の希望が高くなっていますが、介護老人保健施設では「他の施設」を希望する人が26.5%（18人）となっています（図表2-21）。

「その他」として、「夜間の介護が大変なので、受け入れてもらえるなら、どこでもよいので施設入所を希望」「金銭的にきびしいので、要相談」が記載されていました。

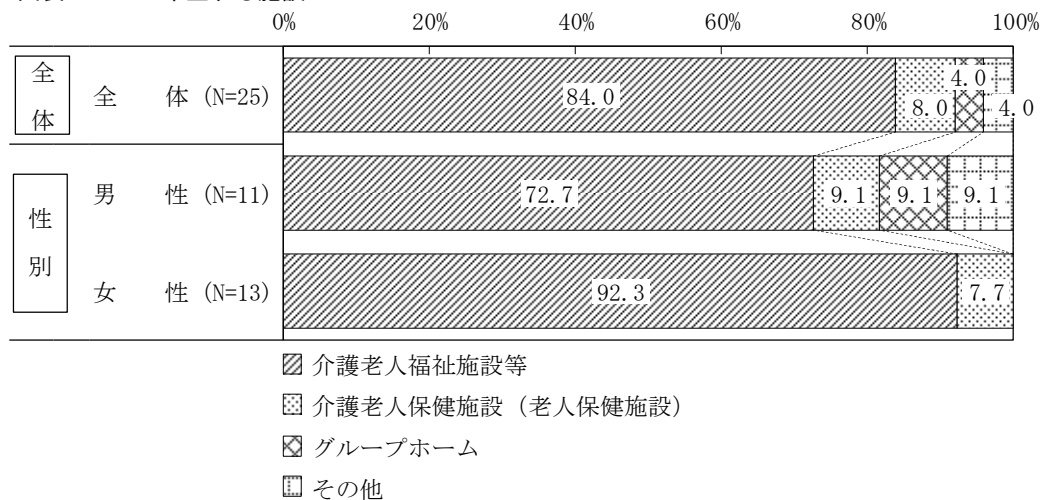
図表2-21 どこで介護を受けたいか（過去の調査との比較）



「他の施設」と答えた25人に希望する施設をたずねたところ、「介護老人福祉施設等（特別養護老人ホーム、地域密着型特別養護老人ホーム）」が84.0%（21人）、「介護老人保健施設」が8.0%（2人）、「グループホーム」が4.0%（1人）と答えています（図表2-22）。

「その他」として、「今より安い施設」が記載されていました。

図表2-22 希望する施設



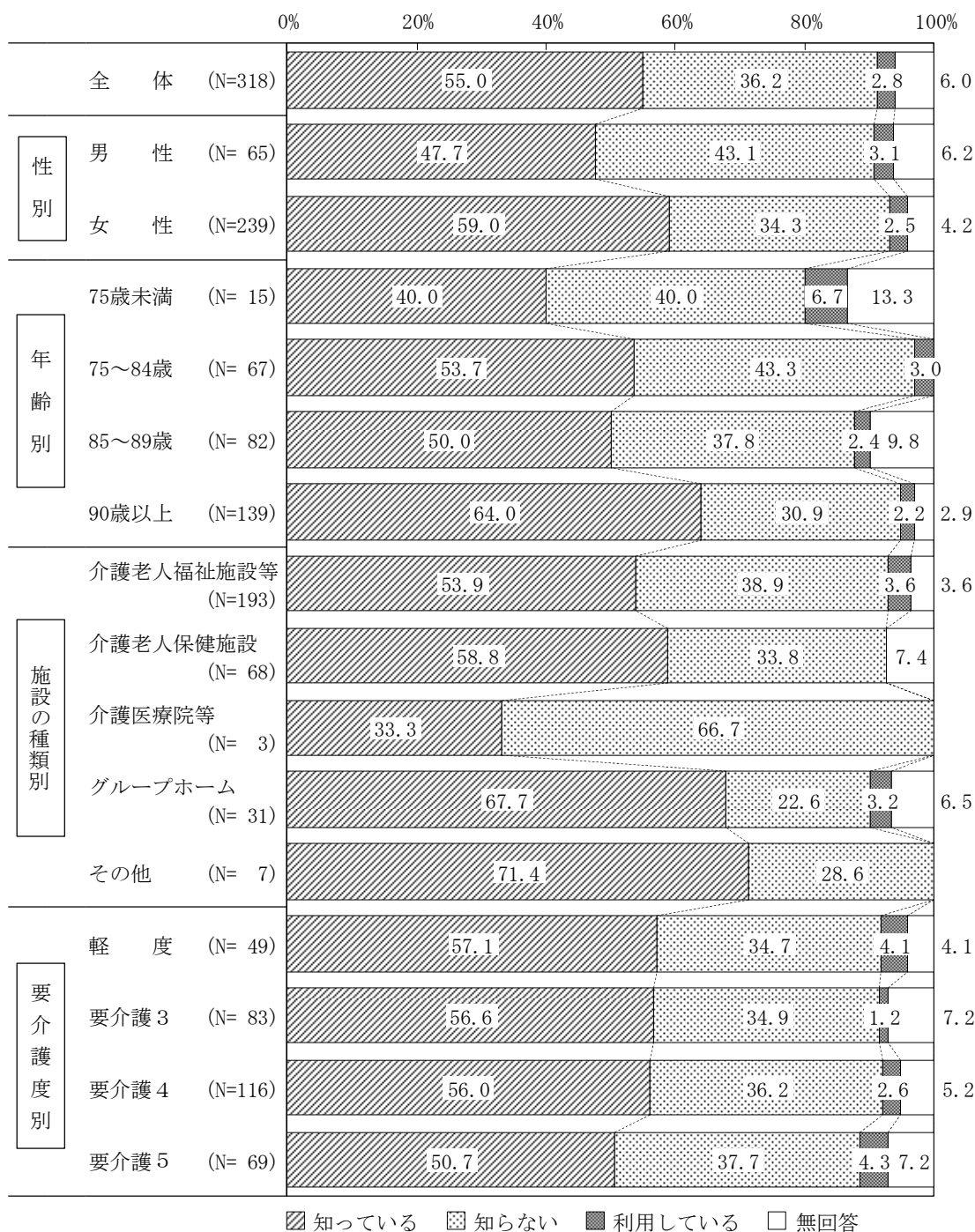
(注) 「介護医療院、介護療養型医療施設（療養病床）」と答えた人はいなかった。

6 成年後見制度

(1) 成年後見制度の認知度

認知症などにより判断能力が不十分な人の権利を擁護するための成年後見制度については、「知っている」が55.0%、これに「利用している」(2.8%)を加えた認知度は57.8%です。認知度が比較的高いのは、施設の種類のグループホーム、その他の施設で70%を上回っています。

図表 2-23 成年後見制度の認知度

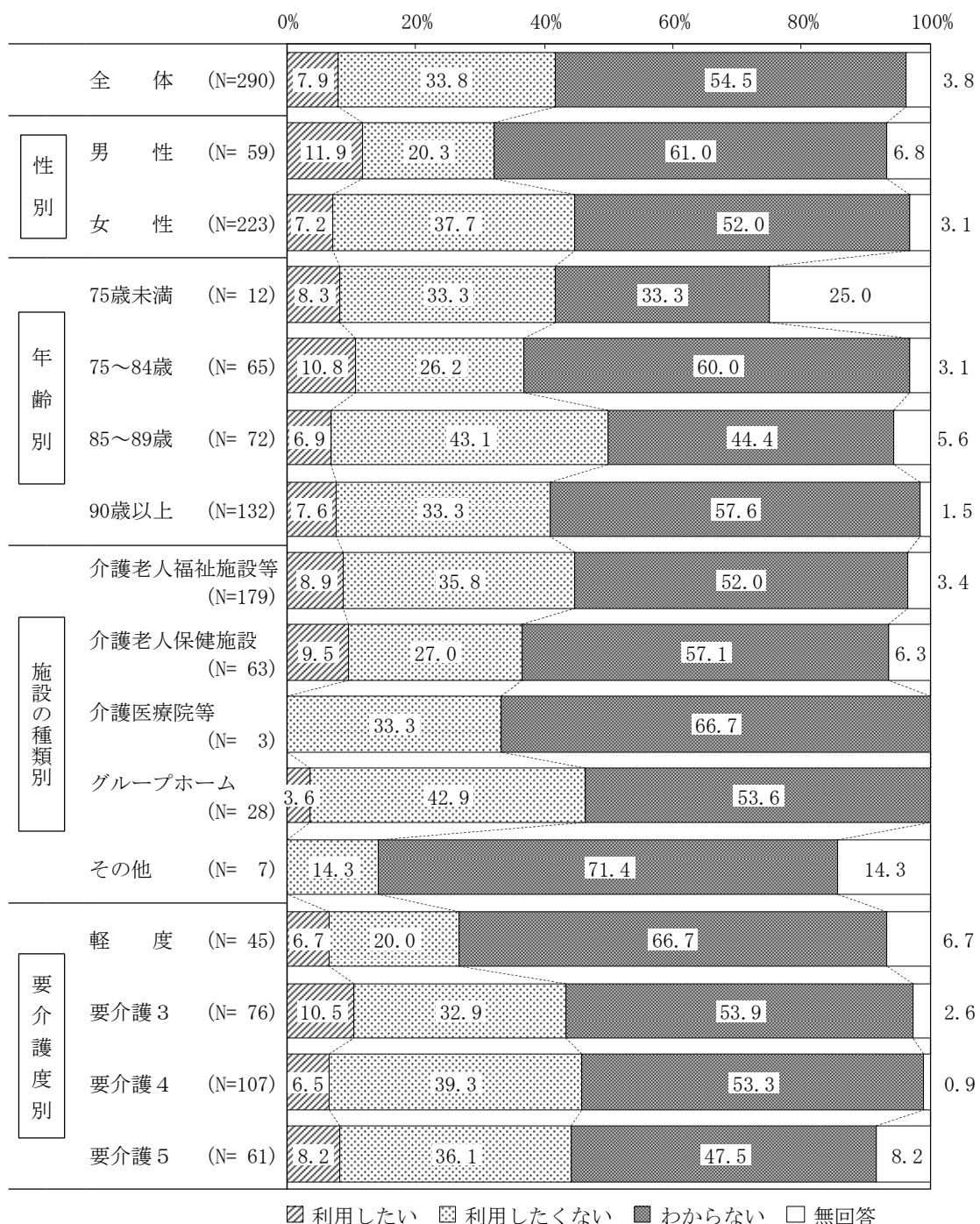


(2) 成年後見制度の利用意向

前問で「1. 知っている」「2. 知らない」と回答した人の成年後見制度の今後の利用意向をたずねたところ、「利用したい」は7.9%（23人）となっています。「わからない」が過半数を占めています。

利用意向が高いのは、年齢別の75～84歳、要介護度別の要介護3で10%を上回っています。

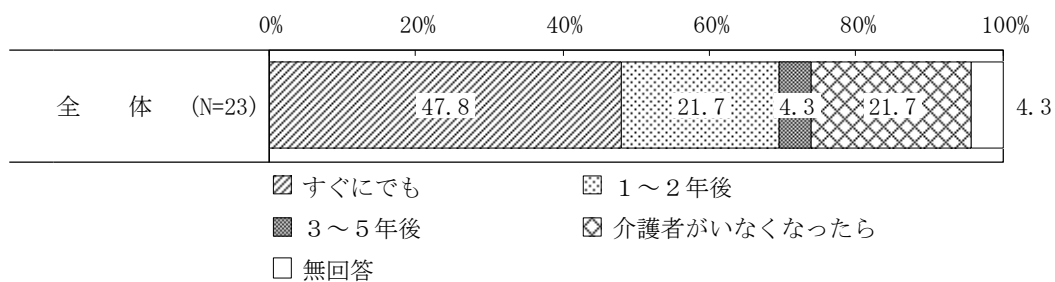
図表 2-24 成年後見制度の利用意向



(3) 成年後見制度の利用時期

成年後見制度を「利用したい」と回答した23人に、いつから利用したいかをたずねたところ、「すぐにでも」が47.8%（11人）と最も高くなっています。「1～2年後」「介護者がいなくなったら」がそれぞれ21.7%（5人）となっています。

図表 2-25 成年後見制度の利用時期

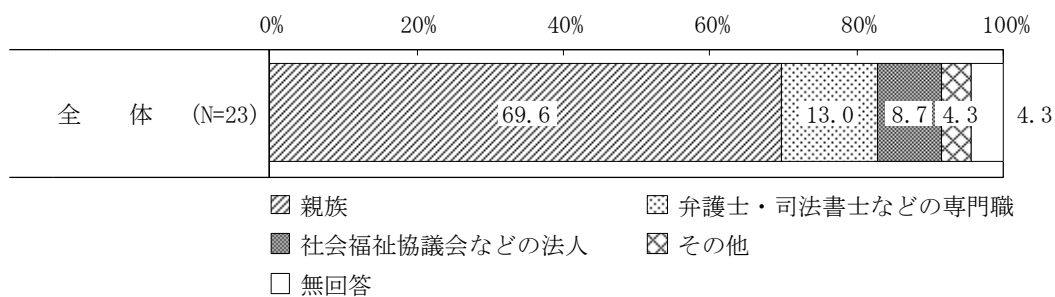


(注)「その他」と答えた人はいなかった。

(4) 希望する成年後見人

成年後見制度を「利用したい」と回答した人に、だれに後見をしてほしいかをたずねたところ、「親族」が69.6%を占めています。「弁護士・司法書士などの専門職」が13.0%、「社会福祉協議会などの法人」が8.7%となっています。

図表 2-26 希望する成年後見人

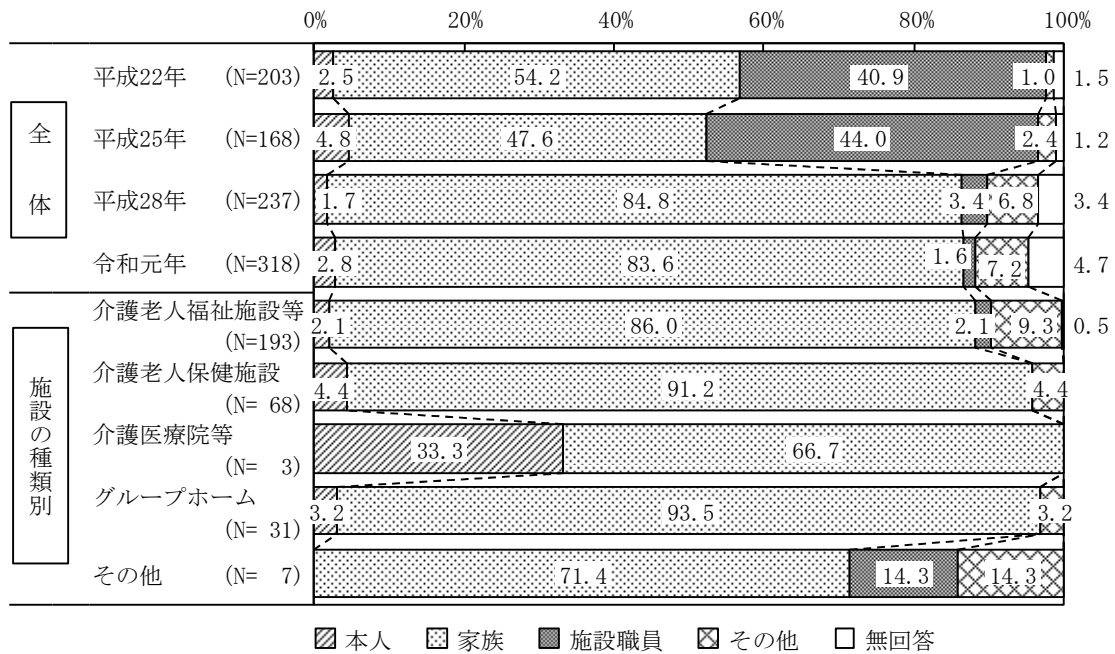


7 調査票の記入者

調査票の記入者は「家族」が83.6%を占めています（図表2-27）。

「その他」、添え書きとして、図表2-28の内容が記載されていました。

図表2-27 調査票の記入者（過去の調査との比較）



図表2-28 調査票の記入者（その他、添え書き）

<ul style="list-style-type: none"> ・長女（2人） ・子 ・娘 	<ul style="list-style-type: none"> ・義兄 ・義弟 ・義妹 	<ul style="list-style-type: none"> ・甥（3人） ・姪 ・親戚（3人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・後見人（7人） ・社協
---	---	---	---

8 意見・要望

(1) 特別養護老人ホーム利用者

- 特別養護老人ホームでも、機能訓練などのリハビリ等ができるような指導ができれば、ありがたいです。
- 特養でも、通所等でやるような歌やレクリエーションなど毎日の活動をしていただけるとありがたいです。
- 介護・看護の人の人数が少ないと思います。(現在の施設において) 不満というわけではありませんが、手の行き届かない現状もあり、費用・本人負担が増えても、十分な人員を確保してほしいと思います。規定の数は満たしているのですが、制度の見直しをお願いしたいものです。
- 脚が悪く車いすが欠かせないため入所したが、体調も良く健康的な生活ができ、本人も満足している。終身面倒みていただけることに、本人も家族も感謝している。
- 100歳の母を施設でみてもらって、長男の嫁として大変助かっています。昔なら家でみなければならず、嫁の心や体の負担が多いので、ありがたいです。
- 伊吹地区にも、特養をぜひ造ってほしい。現在の施設まで遠く、家族が行くのが大変。
- 今の施設でよろしいが、悪くなったら入院なので心配です。
- 現在利用している施設では、大変丁寧にしていただいております。ありがたく思っています。
- 施設の人には大変お世話になり、感謝しています。
- 大変な人をよくみていただき、ありがたいです。
- 年金生活では、毎月の施設の利用料金の支払いが大変です。
- 一人暮らしで収入がないのに、貯蓄があるからと言って、施設の利用料が高くなるのはいかなものか。
- 有料老人ホームやデイサービスなど、介護施設の見学ツアーを計画してほしい。
- 現在の施設に入所するにあたって、大変な思いをしました。父が急死し、母一人残ったため、認知症である母をどこへ入所させればいいのか全く情報がなく、役場に聞いても明確な答えが得られず、途方に暮れたしです。なぜ公共の相談窓口がしっかりされていないのか、過去形ですが不思議でした。
- 家族として、施設さがしや施設の内容について知るのに、大変時間と労力を使い、介護しながらの同時進行は本当に大変でした。市役所が悪いとは言いませんが、最後は家族が勉強し調べ足を運び手続きをしないと、前に進まないのだと痛感しました。やっと施設に申し込ん

○いつも親切にさせていただいて、ありがとうございます。

○母は認知症で記憶ができません。これ以上点数が使えないので、個室の整理は家族でしてくださいとのことですが、家族が高齢になり、トイレの掃除、タンスの整理、ベッドメイキングなどできなくなると、どうなるのか不安です。昨年認定の時より状態がだいぶ悪くなり、歩行は付き添いがついてようやくできるぐらいです。暗くなってもじっとしていることが多く、より多くの見守りが必要と思います。要介護1のままでは、母の日常生活を家族の負担で続けなければならない、自身の年齢を考えると不安です。

(3) グループホーム利用者

○今後も継続して手厚い介護をお願いします。

○施設等の負担金が高い。

○介護保険制度が始まった平成12年度から19年が経過したが、社会保障経費は想定された以上にすぐに膨れ上がっています。制度開始当初から言われていたことでもあります。消費税を10%に引き上げ、自己負担割合の増加などと、施策検討がされているが、利用者の収入は減る中で、国・行政として、この制度が持続できうるよう、利用者目線にたった改革を進められるようお願いしたい。

○グループホームは居宅サービス扱いとされていますが、利用実態は施設サービスと同様で、利用料金は相当に割高となります。また、負担減の対象とならないことから、利用者負担金の軽減につながる何らかの方策を検討できませんか。

○現在の施設で安心して、ほぼほぼ満足していますが、月々の利用者負担がもう少し安ければ大満足です。例えば10万円/月程度であれば。

○施設では十分な介護を実施され感謝しています。家族としては、できる限り負担は少なくしたいため、税額控除等を国へ働きかけていただけたらありがたいです。

○いろんなアンケートが市からくるが、本当に役に立っているのでしょうか？ 反映されているのでしょうか？ ありきたりの質問だけで、何がわかるのですか？ 福祉関係の市役所の人たちは、1か月程度福祉施設へ研修に行かれてはいかがですか。そうすると、もう少しましなアンケートが作れると思うのですが…。市役所の考え方はあまいと思います。このような意見は抹殺されるのでしょうか。